

令和 6 年 2 月 14 日

教 育 長 様

研究コース	
A グループ研究 A	
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)	
752724	
選定番号	523

代表者	校 園 名 :	大阪市立加美中学校
	校 園 長 名 :	谷 塚 高 雅
	電 話 :	06-6791-5155
	事 務 職 員 名 :	町 井 緒 利 恵
申請者	校 園 名 :	大阪市立加美中学校
	職 名 ・ 名 前 :	教 頭 岸 本 治 郎
	電 話 :	06-6791-5155

令和 5 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 5 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	言語活動の充実を図る研究			
3	研究目的	世界のグローバル化や人工知能 (A I) により激変する社会を見据えると、生徒の「思考力・判断力・表現力等」の育成は必須であり、それらの力を育むため、言語活動の充実を図る研究に取り組む。 1. 「習得・活用・探求」の学習過程を構築し未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する。 2. 「言語活動」をテーマとした授業づくりを進め、教員の授業改善と指導力向上を図る。 3. 教育の好循環サイクルを構築し、意気込みを持って教育を推進する教職員組織を確立する。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコック 9.5ﾎﾟｲﾝﾄ) ○4月 学校教育目標設定 ○6月 授業アンケート実施 (生徒の意識調査) ○7月 県外出張・大学教授招聘の実施計画立案 ○9月 全国学力学習状況調査の結果分析・検証 11日 (月) 神戸市立本多聞中学校視察 (図書 の活用) 12日 (火) 丸亀市立西中学校視察 (数学科) ○10月 20日 (金) 大垣市立興文中学校視察 (国語科) 21日 (土) 岐阜市立東長良中学校視察 (理科・保健体育科) 25日 (火) 豊橋市立石巻中学校視察 (豊橋市の学力向上施策) ○11月 2日 (木) 坂出市立白峰中学校視察 (英語科) 郡上市立八幡中学校視察 (リーディングスキル) 7日 (火) 犬山市立東部中学校視察 (健康教育) 8日 (水) つるぎの町立貞光中学校視察 (人権教育) 14日 (火) 茅ヶ崎市立松浪中学校視察 (技術家庭科) 16日 (木) 八代市立鏡中学校視察 (保健体育科) 17日 (金) 鈴鹿市立白鳥中学校視察 (保健体育科) 相馬市立中村第一中学校視察 (社会科) 21日 (火) 熊本市立桜山中学校視察 (STEAM教育・理科) ○12月 7日 (木) 対外的な公開授業・研究協議会の実施 (数学科・保健体育科) 横浜国立大学名誉教授 高木展郎先生招聘 授業アンケート実施 (生徒の意識調査) ○1月 17日 (水) 学校に関するコンサレーション 大阪教育大学教職大学院で取り組み発表 24日 (水) 公開授業・研究協議会の実施 (英語科) 関西学院大学教授 佐藤真先生招聘 大阪市教育センター基本研修企画G指導主事 打矢昭宏先生招聘 大阪市教育センタースクールアドバイザー二上和正先生招聘 ○2月 チャレンジテスト結果検証・考察 22日 (木) 茅ヶ崎市立松浪中学校視察 (社会科・管理職) 帰校後伝達講習 ○3月 今年度の振り返り			
5	研究発表等の日程・	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。 日程 令和 5 年 12 月 7 日 参加者数 約 45 名 場所 大阪市立加美中学校			

〃	場所・ 参加者数	備考	○令和5年12月7日 数学科・保健体育科で公開授業・研究協議会 横浜国立大学名誉教授 高木展郎先生招聘 45名参加 ○令和6年1月24日 英語科で公開授業・研究協議会 関西学院大学教授 佐藤真先生招聘 37名参加
---	-------------	----	---

6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>先進的な学級経営法（「教室は間違うところ」「分からない」と誰もが言える学級づくり）や授業法（「授業づくりは問づくり」「教員が多く語らない授業」）に取り組むことで、生徒たちの言語能力の向上を図ることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおける「授業中間違っても笑われない」に対する肯定的な回答を全教科87%以上を目指す。 授業アンケートにおける「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」に対する肯定的な回答を全教科76%以上を目指す。 <p>〔検証結果と考察〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおける「授業中間違っても笑われない」に対する肯定的な回答の全教科の平均が88.7%であった。 授業アンケートにおける「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」に対する肯定的な回答の全教科の平均は75.6%であった。 <p>大学教授の招聘による指導助言や教員の他府県への視察派遣、2回実施したの研究協議会を伴う公開授業の実施により、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善が、確実に進んでいると考えている。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>すべての教員がすべての教育活動で、言語活動の充実を意識した授業づくりを行うことで、生徒たちが自分の意見を考えて伝える力の育成が図れる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおける「自分の考えや意見を伝える場面がある」に対する肯定的な回答を全教科75%以上を目指す。 授業アンケートにおける「授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある」に対する肯定的な回答を全教科75%以上を目指す。 <p>〔検証結果と考察〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおける「自分の考えや意見を伝える場面がある」に対する肯定的な回答の全教科の平均は75.4%であった。 授業アンケートにおける「授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある」に対する肯定的な回答の全教科の平均は77.3%であった。 <p>研究授業の実施や大学教授を招聘しての研究協議会での指導・助言等により、教員の意識改革に繋がり、生徒に考える場面やアウトプットする場面が増えた結果だと考えている。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を柱とした学習の仕方を身につけた生徒を育成することで、生きる力としての学力の向上が図れる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおける「授業がよくわかる」に対する肯定的な回答を全教科80%以上を目指す。 各種調査における、対府比の割合を前年度より向上させる。 （令和4年度 全国学力・学習状況調査…0.901 チャレンジテスト…0.902） <p>〔検証結果と考察〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおける「授業がよくわかる」に対する肯定的な回答の全教科の平均は91.6%であった。 各種調査における、対府比の割合は、全国学力・学習状況調査…0.881 チャレンジテスト…0.887であった。 （令和4年度 全国学力・学習状況調査…0.901 チャレンジテスト…0.902） <p>取り組みの成果が点数に結びつかない結果となった。基礎学力の定着へ向け、さらなる授業改善や学びのプラン・シラバスを作成するなどして、家庭学習の充実も図っていきたい。</p>
---	-------	---

6 成果・課題

【見込まれる成果 4】

- ☐ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上
- ☒ 教員の資質や指導力の向上

教員の授業の在り方等を研修し合う教員組織が確立され、教師力の育成や互いに高め合う教員組織づくりが図れる。

《検証方法》

学校評価（教職員）アンケートにおける「本校の教育課題について、教職員で日常的に話し合っている」の肯定的な回答（令和4年度58%）を、前年度よりも向上させる。

〔検証結果と考察〕

学校評価（教職員）アンケートにおける「本校の教育課題について、教職員で日常的に話し合っている」の肯定的な回答（令和4年度58%）の肯定的な回答は89%であった。

今年度、人事配置の工夫により、昨年度よりかなり風通しがよかったことと、何よりも県外出張（延べ20人）での様々な学びから、教科や領域、学年内での本校の教育課題に関する話題が増えたからだと思われる。

【見込まれる成果 5】

- ☒ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上
- ☐ 教員の資質や指導力の向上

生徒たちの学校生活が充実する。

《検証方法》

学校評価アンケート（生徒）における「私は、学校生活が楽しい」に対する肯定的な回答（令和4年度84.2%）を、前年度より向上させる。

〔検証結果と考察〕

学校評価アンケート（生徒）における「私は、学校生活が楽しい」に対する肯定的な回答は91.6%であった。（令和4年度84.2%）

大学教授の招聘による指導助言や教員の他府県への視察派遣で学んだ中で、授業改善を含め、良い実践については、本校バージョンに変えて取り組んだ成果であると考えている。

【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。

1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する

- ・先進的な取り組みに学ぶために、秋田県や石川県などの学力研究フォーラムに教員を派遣し、主体的・対話的で深い学びを実現した授業のデザイン化を図る。
- ・主体的・対話的で深い学びの授業を行うため大学教授を招聘し、「ノートづくり」や「話型の活用方法」「掲示物の活用方法」などについての指導助言を仰ぎ、生徒の言語能力の育成を図る。
- ・学力向上委員会を核として、全教員・全教科で「言語活動」の充実をテーマにした授業に取り組み、生徒たちの言語能力の育成を図る。
- ・全教員が公開授業を行い、授業研究をもとにワークショップ形式の研究協議会を実施することで、相互に授業力アップを目指す。
- ・対外的な「公開授業・研究協議会」を年1回以上実施する。
- ・リーディングスキルテストの結果分析から、課題解決に向け取り組む。今年度は、「同義文の判定」「理数系具体例の同定」に重点を置き、生徒たちの読解力の向上を図る。
- ・元気アップ本部事業と連携し、全学年で視写に取り組む。書くことや読むことを通して語彙力や文章力の向上を図る。

2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する

昨年度から、研究テーマを「言語活動の充実を図る研究」と設定し、全教員による一人一授業と学期に1回の公開授業・研究協議会（大学教授や教育センターのスクールアドバイザーを招聘）を実施し、そのうち2学期と3学期では、他校の教員にも公開してきた。また、先進的な取り組みを行っている他府県への20名の教員の視察派遣を実施してきた。その結果、教員の「授業改善」への意欲や「言語活動」をテーマとした授業づくりに対する意識が高まってきている。そこで、これまでの取り組みのさらなる充実と発展を目指し、本校の生徒の実態に合う学習方法である「加美中モデル」を作り上げ、実践を積み重ねていきたい。そのためには、引き続き高名な大学教授を招聘して、授業力向上へ向けさらに指導助言を仰ぐことや、教員を他府県に派遣し先進的な取り組みを学ぶことが必要である。

【具体的な取り組み】

- ①先進的な取り組みを行っている秋田県や石川県、全国の大学附属中学校などで実施される学力向上研究フォーラムに、教員が参加し視察してきたことをもとにして、言語活動の充実をテーマとした授業のデザイン化を図る。
- ②高名な大学教授や大阪市教育センタースクールアドバイザー等を招聘し、「言語活動の充実」をテーマとした講演会を実施し、様々な角度からの指導助言を仰ぐ。
- ③学力向上委員会を核として、全教員が言語活動の充実をテーマとした一人一授業と学期に1回授業研究をもとにしたワークショップ形式の研究協議会の実施や各学期に一度（2週間程度）授業参観週間を設け、相互に授業力アップを目指す。
- ④対外的な公開授業・研究協議会を年2回以上実施する。
- ⑥リーディングスキルテストの結果分析から判明した本校の課題は、「係り受け分析」「同義文の判定」「理数系具体例の同定」であるので、その解決に重点を置き、生徒たちの読解力の向上を図る。
- ⑦元気アップ本部事業と連携し、全学年で「天声人語」の視写や読書に取り組み、書くことや読むことを通して語彙力や読解力、文章力の向上を図る。

3. 継続研究（3年目）

《代表校園長の総評》

1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する

- ・「何を」「どのように」学ばせるかの観点で取り組みを深めていきたい。
- ・教員の授業改善を図る中で、生徒の学びを深め、各種調査における結果に繋げたい。
- ・良い結果が教員に達成感を持たせる教育の好循環サイクルを構築し、意気込みを持って教育を推進する「がんばる先生集団」を確立したい。
- ・将来を見据え、言語活動を充実し、目先の点数だけでなく、「考える力」をしっかりと育成できる教職員組織を確立したい。

2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する

- ・「言語活動の充実」をテーマとした授業改善を図る研究を通じて、今では授業のみならず、様々な教育活動で、生徒たちが主体的に学び、自分で考え判断し、発言（行動）する場面が多くみられるようになってきたと感じている。さらに、この研究を推進し、生徒の言語能力の向上を図りたい。
- ・アンケート結果においては、昨年度より良い結果が出ている。この流れを各種調査の教科平均正答率に繋げ、教員に達成感を持たせる教育の好循環サイクルを構築し、意気込みを持って教育を推進する「がんばる先生集団」を確立したい。

3. 継続研究（3年目）